

研究計画書

ゼミ名	村澤ゼミⅡ	チーム名	康泰
タイトル	理系出身者と文系出身者の年収比較		
テーマ群	g) その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>「リサーチクエスト」</p> <p>「理系は文系より儲かる」ということはよく言われている。そこで、「理系出身者が文系出身者より年収が高いということは、景気の良し悪しに影響されない。」また、「文系出身者でも、大学入試時に理系科目を用いた場合、用いなかった文系出身者よりも年収が高い。」という仮説を検証したい。</p> <p>「使用データ」</p> <p>主に、慶應義塾大学パネル調査共同研究拠点にて設計された「日本家計パネル調査(JHPS)」データを使用する。</p> <p>「分析手法」</p> <p>gretl を用いて、ノンパラメトリック回帰分析などを手法とする。</p> <p>「研究内容」</p> <p>まず先行研究である「パネルデータに基づく理系出身者と文系出身者の年収比較(浦坂純子、西村和雄、平田純一、八木匡)」の研究結果である、男性対象者の年齢と平均年収を比較した時、若年期では文系出身者が理系出身者の平均年収をわずかに上回るものの、全体的に見ると理系出身の方が文系出身者より平均年収が高くなっているということを再現する。</p> <p>次に、1年ごとの理系出身者と文系出身者の平均年収を調べ、そこから離職者が増えた年の平均年収への影響や、男女の平均年収の違いなどを調査する。また、対象者の年齢でグループ分けしたデータセットでも、離職者の数や性別がどう関わっているのかを調査する。</p> <p>さらに、文系出身者に対象を絞り、入試時の受験科目が今後の平均年収に関わってくるのかについても調査する。</p> <p>「この研究のメッセージ」</p> <p>将来的に同じ企業に長く勤めて行きたい場合、理系科目を選択すると年収が高くなる。</p>		